

撮影協力/眠りの駅 宜野湾店



寝具にはカーゼやコットンサテンなど、天然素材の肌触りの良いものが◎。枕は高さや硬さなどこだわって自分にあった快適なものを選びましょう

琉球 アロマと風水で すっきり ⑫

執筆/横川明子
(アロマ空間デザイナー・琉球風水スクール「アムリタ」主宰)

一日の中でも長い時間を過ごす寝室の環境は、運勢にも大きく関わります。今回は、空間の氣の流れから判断する枕の向きとベッドの配置など、寝室の風水について解説します。

住宅の奥側や北側が適す

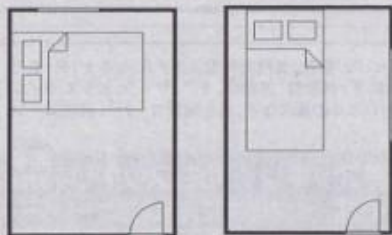
王朝時代の風水を取り入れた集落では、屋敷は北側を背にして南側を向くことを基本とし、間取りもほとんど同じようにできていました。どの部屋が、誰の寝室になったのかは、家の大きさ、家族構成、地方などによってさまざまですが、母屋の奥側にある裏座が、主に寝室として使われていたようです。

これは、現代にも適応できる考え方で、住宅の奥側は来客の動線や視線にさらされず、落ち着いてプライベートを保つことができます。また、日当たりが弱く、静かである北側の陰の方位は、プライベート空間である

■ 寝室① 枕の向きとベッドの配置

適切な配置で氣の流れ良く

好ましい枕の向きとベッドの配置



◎入り口はベッドの足側
◎窓はベッドの側面

安心感のある枕の向きとベッドの配置は、寝室の入り口の位置から決めます。枕は入り口から反対側に向け、ベッドを壁際につけて安定させます。頭の先が窓や吹き出し窓になっている場合には、落ち着かないので、厚手のカーテンにして、ベッドにはヘッドボードをつけましょう。

寝室の配置に適しています。

さて、枕を向ける方向に関しては、さまざまな言い伝えを聞いたことがあるのではないのでしょうか。一般的に、日本では北枕を嫌う傾向があります。しかし、風水では、北を陰の方位とし、光も穏やかで落ち着いていて、枕を向けるには良いと考えます。

一方、昔の沖縄では、太陽が昇る神聖な方向のアガリ(東)に、枕を向けて寝る習慣がありました。また、家から死者が出た場合、二番表座の仏間に寝かせ、物事の終わりをしめす方向であるイリ(西)に頭を向けたといえます。そのため、「西枕は良くない」という風習が今でも沖縄に残っています。

入り口と窓の位置で判断

では、家の向きや形もさまざま

よこかわ・あきこ / 東京都出身。マリンサファイア合同会社代表。アットアロマ社認定アロマ空間デザイナー。和来龍氏に師事し、琉球風水を学ぶ。琉球風水の講師や新築住宅などの風水鑑定を行っている。☎090-7729-1020
ホームページ <http://aromarine.jp>
ブログ <http://ameblo.jp/marine-sapphire/>



まな現代住宅において、どのようにして良い枕の向きを決めればよいのでしょうか。部屋の造りを考えず、枕を向ける方向だけを風水として取り入れてしまいい、かえって寝心地が悪くなってしまうことがあります。

琉球風水では、住宅の空間を貫く氣の流れを重視して判断するので、寝心地の良い枕の向きとベッドの配置は、寝室の入り口と窓の位置から決定するのが現実的だと考えます。

既存住宅の場合、その家に与えられた環境である部屋の造りから、入り口と窓の位置をみて、最も落ち着く枕の向きとベッドの配置を決めます(上図参照)。新築やリフォームでは、寝室・子ども部屋の中で、良い位置にベッドを置くことができるよう、壁と窓のバランスを考えます。ベッドの大きさや配置まで設計図面に書き込んでいくと良いでしょう。寝室は人体に例えると、自律神経に相当し、健康運と愛情運、子宝運をつかさどります。良い氣が流れ、幸運の舞い込む快適な寝室に整えましょう。

(第4週に掲載)